

# 緑と土と太陽と

テーマ：“緑と土と太陽と”  
かがやけ港っ子！



## 佐世保市立港小学校

特色ある学校づくり推進会

会長 高橋 ちあき

所在地：佐世保市天神町1603番地

児童数：277名

学級数：14学級

# 1 テーマ “緑と土と太陽と” かがやけ港っこ！

## 2 目的

### (1) 「学力向上を目指し、学びに向かう主体的態度を養う教育の実践」

- 校内研修を中軸とした授業改善の推進
- 習熟度別学習による算数科学力の向上
- 標準学力検査の実施

### (2) 「体験的学習の充実」

- いのちと触れ合う体験活動の推進
- 外部講師招へいによる講演会の実施

## 3 実践内容

### (1) 「学力向上を目指し、学びに向かう主体的態度を養う教育の実践」(全学年 通年)

#### ① 校内研修を中軸とした授業改善の推進

今年度、「主体的に学ぶ力を高める児童の育成」を研修主題とした校内研修に取り組みました。『かく』活動と『学び合い』のある算数科の授業づくり」を副主題として、自分の考えをもって主体的に学ぶことができるよう授業改善を推し進めています。授業では、自分で「考える」、友達と意見を交わし考えを「磨き合う」という機会を設定し、全学年で研究授業に取り組み研修の充実を図りました。自分の考えをもち、対話的な学びをしていくことで機会を設けることで、学習理解が深まり成果が見られました。「わかった」「できた」が増えたことで、児童の学ぶ意欲が高まり、次の授業を楽しみにするなど主体的な態度が育ってきました。



#### ② 習熟度別学習による算数科学力の向上(3～6学年 通年)

個人の学力差に対応するために、昨年度に引き続き、3年生以上においては学級を分けて少人数指導を実施した。6年生においては、一クラスを2つに分けて習熟度別学習を実施しました。

その結果、教師の関わりが個々に届くようになり、基礎基本の学習理解を深めることができました。さらに、学力の基礎基本となる国語・算数を中心に、新学習指導要領に対応した補助教材を活用し、基礎的な学習事項の習熟の徹底を図りました。



#### ③ 標準学力検査の実施(1月 1回 1～5学年)

前年度からの課題を克服するために、学力向上の取組を進めてきました。算数科においては、苦手とする領域の学力の向上が見られており、授業改善や学習形態の工夫等の取組の成果が見られました。

## (2) 「体験的学習の充実」

今年度は、新型コロナウイルス感染症の予防を念頭に置きながら、安全に留意して実施可能な取組を検討し、できる範囲で連携を進め体験的活動の充実を図りました。

### ① 平和について考えよう (6月29日 1回 全校)

佐世保大空襲の日に行う平和集会では、外部講師に依頼し、佐世保空襲を描いた作品(ひいばあと雨)を電子紙芝居にし、各教室で視聴しました。その後、平和について学年に応じて学ぶことができました。本来ならば、劇仕立てである予定でしたがコロナ禍にあるため、電子紙芝居として作成を依頼しました。児童の心に響くものとなりました。



### ② EM菌を使った土づくり (6月~12月 3回 5年生)

環境学習の一環として、5年生総合的な学習の時間に実施しました。今年度も「環境美化を考える会」の方にご協力をいただき、EM菌を使った土づくりを行いました。最初に、EM菌の働きについて学習した後、EM菌と糖蜜、米糠などを混ぜ、ぼかしをつくり、各家庭から持ち寄った野菜くず等の生ごみを混ぜ合わせ、自然にやさしい土づくりを行います。土づくりを行った後、今年度も大根の栽培に取り組み、収穫から調理まで体験活動を仕組みました。生産から消費までの過程を学習し、食を通していのちについて考える良い機会となりました。



### ③ 外部講師招へいによる講演会の実施

#### ○ 特別支援教育に関する校内研修 (8月 1回 教職員対象)

校内研修の一環として、長崎県立大学シーボルト校 公認心理士 伊藤勢津子氏を講師に招き、教職員の研修の機会を設けました。発達障がいをもつ児童及びその障がいの特性について学んだことで、教職員の保護者への対応が改善されました。



#### ○ 思春期講演会 (10月 1回 6年児童 保護者 地域)

伊藤勢津子氏を講師に招き、思春期講演会を開催しました。前半は児童へ向けて、後半は思春期を迎える子どもとの関わり方について保護者向けに講話をしていただきました。児童にとっては、自分たちの心の変化について考える機会となり、その後の学校生活へ生かすことができました。保護者にとっても、子育ての悩みについて共有することができ、有意義な時間となりました。



- 「アラスカフォトライブ」(11月 2回 全児童 保護者 地域 ※育友会との共催)  
国際的に活躍する写真家 松本紀生氏を招へいして、  
フォトライブを開催しました。自然の雄大さや生物の生態を知ること  
で感動体験が生まれ、豊かな心を醸成するきっかけとなりました。密を避けるため、  
低学年と高学年に分かれて2回の公演を行っています。児童、保護者、  
地域、教職員ともに、アラスカの雄大な自然と講師の命を大切にしようという  
メッセージに大きな感銘を受けることができました。講演後は、5、6年生の  
キャリア教育の一環として、別に時間を設け、夢やあこがれを持つことの大切さを  
学ぶことができました。



#### 4 成 果

##### (1) 「学力向上を目指し、学びに向かう主体的態度を養う教育の実践」

- 本校の学力状況を把握し、課題の克服のための具体的方策をとることに大変役に立ちました。また学力向上に関しても、校内研修の充実により教職員間で成果と課題について話し合う姿が随所に見られ、教職員の日々の授業実践・授業改善につながっています。
- 算数科においては、苦手とする領域の学力の向上がみられ、さらなる学力向上への道筋を立てることができました。

##### (2) 「体験的学習の充実」

- 土づくりから行った栽培活動を通して、自然界の循環を学び、生産から消費までの過程についても深く学ぶことができました。食育にもつながり、自分たちの暮らしと環境問題のつながりについて意識を高めることができました。
- コロナ禍において、できる形での体験的な学習の充実を図ることができました。3回実施した講演会は、特別支援教育、保健、総合的な学習の時間の充実につながり、児童、保護者、地域、教職員にとって学びとなる良い機会となりました。

#### 5 今後の課題

- 体験活動の在り方については今後も工夫が必要であると考えています。リモートによる交流活動、見学活動等、ICT機器を活用した取組も検討する必要があると考えています。